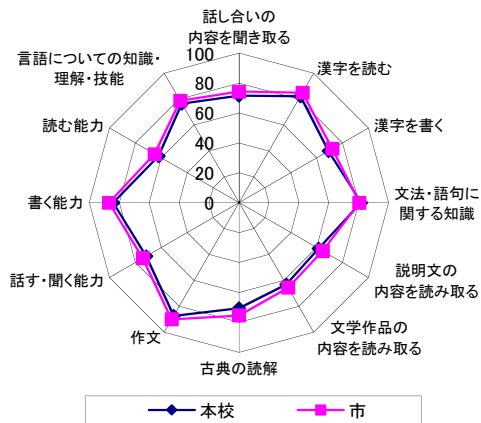


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	71.6	74.3
	漢字を読む	82.2	84.9
	漢字を書く	69.1	72.1
	文法・語句に関する知識	81.6	80.5
	説明文の内容を読み取る	61.4	64.6
	文学作品の内容を読み取る	63.1	65.6
	古典の読解	70.5	75.3
	作文	87.3	90.0
観点別	話す・聞く能力	71.6	74.3
	書く能力	84.1	86.8
	読む能力	62.2	65.1
	言語についての知識・理解・技能	76.6	78.6



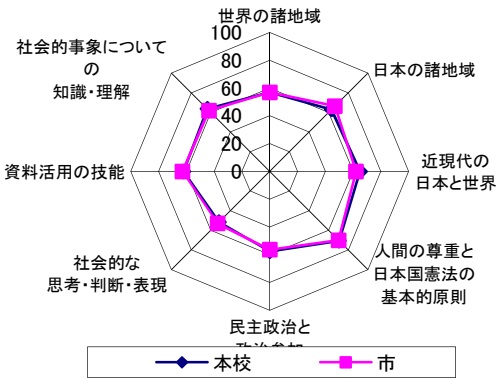
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・市平均正答率に比べて、2.7ポイント下回ってしまった。話の内容を正確に聞き取ることは、ほぼ市と同等の結果が出ている。しかし、発表内容をとらえて、その意図を推測しまとめることが、できなかったようであり、課題が残った。	・定期的に、聞き取りテストを行っており、少しずつメモを取りながら、話の内容を聞き取ることができてきている。更にメモの取り方の指導を続けることで、要点を捉えることができてくると思われる。継続的なテスト形式での練習を続けることが必要である。また、書くことの指導と関連させ、メモしたことをまとめて書く練習にも力を入れる必要がある。
漢字	・市の平均正答率に比べて、読みで2.7ポイント、書きで3ポイント下回った。「輪郭」の読みと、「専門」の書きの問題の正答率が特に低かった。それ以外の問題は、ほぼ市の平均正答率と同程度である。	・小テストを繰り返しており、少しずつ漢字の書き取りも身に付いてきている。「専門」などは、字形が似ていて間違いやすい漢字で、今までにも十分意識させてきたが、正答率は低かった。字形が似ていて間違いやすい漢字、読みが同じで間違いやすい漢字などを、重点的に指導することが大切である。また、繰り返しの練習や小テストでの確認を根気強く続けていくことが大切である。
文法・語句に関する知識	・市の平均正答率に比べて、1ポイント上回った。慣用句・四字熟語・同音異義語・助動詞に関する出題であったが、すべての問題で市の平均正答率を若干ではあるが上回っている。	・語句や文法については、機会を捉えて少しずつ復習をしながら意識させてきたことが、結果となって表れてきた。文法や語句の単元だけではなく、「読み取り」や「書く」の内容のときに、機会を捉えて指導して復習していくことが大切である。また、ただことばの知識として覚えるのではなく、文章中で活用できるようにして身に付けさせていくことも大切である。
説明文の内容を読み取る	・市の平均正答率に比べて、3.2ポイント下回ってしまった。文章の構成や展開をとらえたり、文章の内容をとらえてそれを具体的な事例にあてはめたりする問題の正答率が、特に低かった。	・ことばを大切に、細かいところを丁寧に読むことを心がけさせる。また、細かいところを断片的に読むだけではなく、全体の文脈や構成・筆者の主張などを捉えたうえでの部分的な読み取りも、意識させることが大切である。
文学作品の内容を読み取る	・市の平均正答率に比べて、2.5ポイント下回った。登場人物の心情や様子をとらえる問題の正答率が低かった。表現の仕方に着目した問題は、市の平均正答率と同じであった。	・登場人物の人物像や心情を読み取るためには、ポイントを押さえる必要がある。文学作品の読み取りの中で、登場人物の行動・会話や情景描写などに着目した読み方を繰り返し行い、読み取るポイントを身に付けさせる。
古典の読解	・市の平均正答率に比べて、4.8ポイント下回ってしまった。すべての内容の中で、市の平均を一番下回った結果になった。内容はある程度とらえているようだが、基本的な問題である、主語をとらえたり歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したりする問題の正答率が、市の平均に比べて大きく下回り課題である。	・歴史的仮名遣いの読み方などの基本的な知識は、繰り返し練習することで定着が図れる。また、音読を繰り返し、古文の読み方や言い回しに慣れることが、一番大切である。古典に対しては、意味が分からず苦手意識をもっているところもあるので、古典のおもしろさを感じさせていくことも必要であろう。
作文	・市の平均正答率に比べて、2.7ポイント下回った。「指定された文字数で書く」「3段落構成で文章を書く」「自分の考えを明確に書く」「自分の考えの理由を書く」「文章の内容に沿ったまとめを書く」のすべての内容で、市の平均正答率を2ポイント強下回っている。書くことにまだまだ慣れていないのが現状である。	・「書く」単元だけではなく、多様な場面で、短い文章で書く機会を多くし、「書く」ことに慣らしていくことが大切である。また、パターン化した練習や条件をつけた上で書く練習も取り入れていくと書き方にも慣れてくる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	56.8	56.9
	日本の諸地域	62.9	66.4
	近現代の日本と世界	65.0	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	70.6	70.1
	民主政治と政治参加	57.6	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	51.6	53.0
	資料活用 of 技能	62.0	62.7
	社会的事象についての知識・理解	63.5	61.9



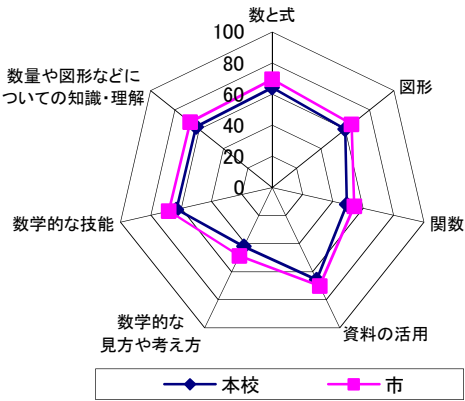
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域	・全体としては、市平均とほぼ同じ正答率である。ヨーロッパ州の範囲は市平均を下回っているが、北アメリカ州の範囲は市平均を上回っている。 ・思考・判断・表現の問題や資料活用の技能を問う問題は、市平均とほぼ同じか上回っている。記述問題も市平均とほぼ同じである。反面、ヨーロッパ州の地図や表を使った、知識・理解を問う問題の正答率が低い。	・地理的分野に苦手意識をもっている生徒が多いので、基礎的な重要事項を理解させるのはもちろん、地図や表などの資料を読み取る能力を向上させる必要がある。 ・グラフや表を落ち着いて見て、正確にじっくり読み取る力を身につけさせる必要がある。計算力の向上も不可欠である。 ・地図帳に親しむ機会を多くもつなどして、地図と関連させて覚えたり、事象を関連づけて考えたりする習慣をつけさせたい。 ・資料から分かったことを記述する活動などを積極的に取り入れていきたい。
	日本の諸地域	・市平均を3.5%下回る結果で課題が残る。特に正答率が低かったのは、雨温図を選ぶ問題である。基本的な内容を問う問題であったにもかかわらず、市平均を大きく下回っている。	
歴史	近現代の日本と世界	・正答率が65%であり、市平均を約3%上回っている大変良好である。明治時代は約3%、大正時代は4.6%、昭和時代は約1%上回っている。 ・ほぼすべての問題で市平均を上回っているが、下回った2題は、世界地図や日本地図を使った問題である。国や都道府県の位置と歴史的事象を組み合わせる考えることが不十分であると考えられる。	・歴史的分野は、基礎的な知識の定着は大変良好であった。引き続き基本的なことから丁寧に指導していき、重要事項をしっかりと理解させる指導を継続していくことが大切である。 ・歴史的分野と地理的分野を関連させた問題への対策を進めていきたい。 ・歴史上のできごとの大まかな流れをつかませるために、年表を活用してまとめる活動なども取り入れていきたい。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	・全体の正答率は市平均を0.5%上回っている。しかし、市平均を上回ったのは、約20%近く上回っている、憲法改正の手続きの問題1題のみであり、その他の問題は市平均を下回っている。特に公共の福祉について資料から思考して記述する問題は、市平均を約10%下回っていて課題が残る。	・基礎的な問題はよく解けていたので、引き続き授業で丁寧に指導していき、重要事項は授業で理解する習慣をつけさせることが大切である。 ・発展的な問題を解く力を向上させるために、論理的に考える思考力を育てるとともに、社会のできごとに関心をもち、一般教養の知識を増やしていく必要がある。 ・授業中必ず思考する場面を入れたり、身近な時事問題を授業に取り入れたりするなどの工夫をしていきたい。
	民主政治と政治参加	・正答率は市平均を1.2%上回っている。国会や内閣の問題の正答率は、ほぼすべてで市平均を上回っていて良好である。しかし、選挙制度の問題については、市平均を下回り正答率も低い。表を使う問題や選挙制度の特徴を記号で選ぶ問題ができなかった。	・考えたことを文章化する学習にも力を入れる必要がある。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	64.2	69.6
	図形	60.0	65.2
	関数	49.1	54.1
	資料の活用	65.7	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	42.1	48.7
	数学的な技能	63.2	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	62.5	67.5



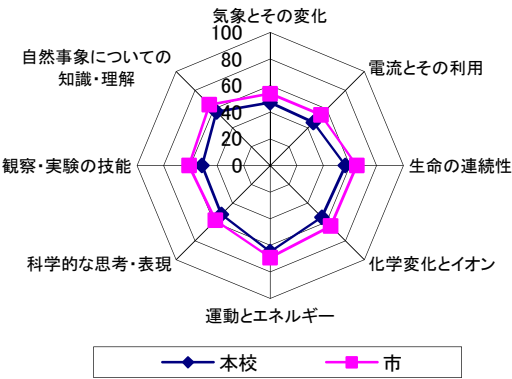
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・市の正答率を5.4ポイント下回っている。多項式の展開については、市の正答率と同等のポイントで、全国正答率を上回っていた。正答率が低くなっていたのは、平方根の計算や展開、2次方程式を解く問題であった。平方根についての理解不足が、2次方程式の解き方に影響し、やり方がわからなかったり、符号のミスをしていた。	・平方根の意味を丁寧に理解させる必要がある。また、平方根の乗法除法・加法減法の混ざった計算を繰り返し行い、定着させることで、2次方程式の解き方に繋げていくことが大切である。モジュール学習を有効活用したり、計算問題を解く時間を毎授業でとったりすることで、計算力を定着させたい。
図形	・市の正答率を5.2ポイント下回っている。図形の性質の角の大きさを求める問題では、市の正答率と同等のポイントで、全国正答率を上回っていた。相似な図形において、辺の長さを求める問題や、図形の性質と証明の記述問題での正答率が低く、理解が不十分であった。	・相似な図形に関して、対応する辺や角を見つけ出し、比例式を使って相似比や辺の長さを求める練習を多く取り入れ、解き方を定着させる必要がある。また、図形の証明問題では、図を丁寧にかけせたり、証明の手順を身につけさせたりして、自分で書けるようになるまで、宿題や小テストで反復練習をさせたい。合同条件や相似条件も確実に覚えさせたい。
関数	・市の正答率を5.0ポイント下回っている。2乗に比例する関数のグラフの読み取りや、式を求める力が不十分である。しかし、関数と図形を結びつけて考察する問いに対しては、わずかではあるが市の平均を上回っている。理由を説明する問題に対しての正答率が低く、自分の考えを表現する力が身につけていない。	・関数を苦手とらえている生徒が多く、基本的なグラフの読み取りや式の求め方から理解させていく必要がある。ともなって変わる2つの数量に注目し、どのような関係で変化していくのかを丁寧に指導していきたい。そのためにも、具体例を多く授業に取り入れ、身近な物として扱い、表・式・グラフの相関関係について小テストなどで繰り返し練習させていきたい。
資料の活用	・市の正答率を4.6ポイント下回っている。しかし、基本的な確率の問題の正答率は市と同等で、全国平均を上回っている。事象が複雑になった確率を考える問題では、求め方の定着が不十分であった。	・確率に関しては、基本的な考え方は理解している生徒が多く、苦手意識を持っている生徒が比較的少ない。場合の数を求める際に必要な樹形図や表のかき方を丁寧に指導し、問題を解くときにそれらを用いることを習慣づけていく必要がある。また、すべての事象を数え逃さないためにも文章を分析する力を身につけさせていきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	47.2	54.0
	電流とその利用	45.8	53.8
	生命の連続性	56.5	65.0
	化学変化とイオン	54.9	64.2
	運動とエネルギー	64.7	69.2
観点別	科学的な思考・表現	52.0	58.2
	観察・実験の技能	51.3	61.1
	自然事象についての知識・理解	57.0	64.6



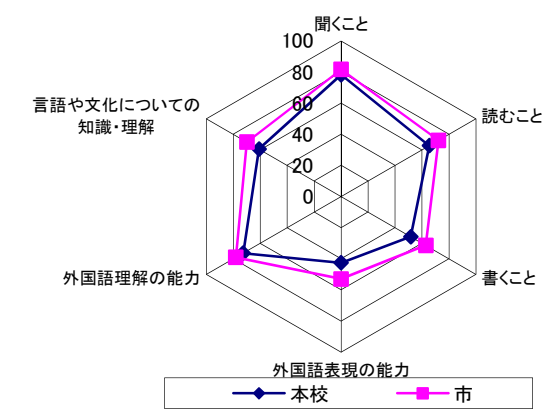
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	・市の正答率を6. 8ポイント下回っている。空気中の水蒸気が凝縮し始める温度を「露点」ということの定着度は高い。空気中の水蒸気が凝結して雲ができるまでの過程の理解や地図中の等圧線から気圧を読み取る技能が定着していない。	・フラスコなどを使った雲ができる実験を行い、生徒の興味関心を高め、モデルを使って雲ができる過程の理解を深める。地図中の等圧線から気圧を求める演習問題に取り組み、気圧を読み取る機能の定着を図る。
電流とその利用	・市の正答率を8. 0ポイント下回っている。磁石やコイルのまわりになされる磁界の向きを求める問題の正答率が高かった。ある時間中に電気器具から発生する熱量や2種類の電球の電力量など計算して解答する問題の正答率が低かった。	・抵抗器に加わる電圧と回路を流れる電流の大きさから、電気抵抗値を求める実験を通して、オームの法則を活用することに慣れさせる。また、計算によって電力量や発熱量を求める演習問題に取り組み、計算力の向上を図る。
生命の連続性	・市の正答率を8. 5ポイント下回っている。細胞分裂の過程や子の代に伝わる形質の遺伝子を求める問題の正答率が高かった。「遺伝子」の理解が十分ではなく、正答率が低かった。	・遺伝の規則性について、親の形質がどのように子や孫の代に伝わるのかモデルを用いて説明し、理解の深化を図る。
化学変化とイオン	・市の正答率を9. 3ポイント下回っている。水に溶かしたときに水溶液が電流を流す物質を「電解質」ということの定着度が高かった。塩化銅水溶液の電気分解によって発生する気体の性質や塩化ナトリウムの電離の様子をイオン式での表現が定着していない。	・塩酸や塩化銅水溶液の電気分解の実験を行い、生徒の興味関心を高め、電気分解によって発生する気体についての理解を深める。また、電気分解や電離の様子をイオン式で表すことに慣れさせ、演習問題を行って技能の定着を図る。
運動とエネルギー	・市の正答率を4. 5ポイント下回っている。面の上に置かれた物体が、面から垂直の方向に受ける力を「垂直抗力」ということの定着度が高かった。テープの長さから台車の平均の速さを計算して解答する問題の正答率が低かった。作図によって2つの力を合成する技能が定着していない。	・水平面を移動する台車や斜面を降りる台車の実験を行い、生徒の興味関心を高め、演習問題を行い計算によって台車の速さを求める技能の定着を図る。また、2つの力を合成・分解する作図演習問題に取り組み、技能の定着を図る。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	78.3	81.7
	読むこと	65.4	72.2
	書くこと	51.6	62.8
観点別	外国語表現の能力	42.5	53.0
	外国語理解の能力	72.8	78.1
	言語や文化についての知識・理解	61.0	70.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・市の正答率を3.4ポイント下回っている。対話の内容に合う絵を選ぶ問題では、市の正答率を少し下回っている。英文の要点を聞き取る問題では、市の正答率を上回る問題もあったが、対話の内容を聞き取り適切に応答する問題同様、市の正答率を大きく下回っている。	・英語を聞いて、その内容を大まかにイメージすることはできる。今後は、相手の意図するところを聞き取ってそれに適切に答えることができるように、英語の質問に英語で答えたり、場面に合う会話をしたりする活動をさらに増やしていく。
読むこと	・市の正答率を6.8ポイント下回っている。グラフや表などの資料を活用して英文を読み取る正答率と比較して、長文の内容を細部まで正確に読み取る問題での正答率が大幅に下回っている。	・対話の流れを読み取って、適切な語形や語法を選ぶことはできている。さまざまな英文の内容を読み取ることはできている。今後は、長文を読んでおおまかな内容を読む力をつけると同時に、細部まで読み取る力も必要である。その際、代名詞の内容の把握の仕方や、質問の答えになる英文の見つけ方などの練習をすることで正確に細かく読み取る力をつけていく。
書くこと	・市の正答率を11.2%下回っている。今まで学習した単語を正確に書いたり、習った文法や表現を使って自分が伝えたいことを英作文する力は市の正答率を10ポイント以上下回っている。	・教科書に出てくる基本的な表現を使えるようにするために、一文をまとめて暗記させる活動を増やす。また、単語を書く力をつけるために、単語練習を家庭学習として習慣化させるようにしていく。